くじゅうタデ原地域の自然を考える

くじゅうタデ原地域は、昭和９年（1934年）に指定された阿蘇国立公園（現在の阿蘇くじゅう国立公園）内にあります。

くじゅう連山、森林、草原、湿原が一帯となった雄大な景観が見もので、くじゅうの自然を模型や映像で紹介している環境省長者原ビジターセンターや、九重温泉郷や寒の地獄といった温泉があり、毎年多くの人々が訪れ、ビジターセンターの近くの湿原や森林での動植物の観察会が行われています。

湿原に生きる生物たち

タデ原湿原には、多様な植物群落が見られ、ミズゴケ類の生育も旺盛です。湿原に生育する維管束植物には、「阿蘇くじゅう国立公園指定植物」が51種、「環境省編レッドデータブック１植物」掲載種が15種、「レッドデータブックおおいた」の選定種が46種もあり、貴重な植物の宝庫です。湿原の周辺には、ノリウツギの低木林が見られます。湿原を流れる白水川及びその支流には、ヘビトンボやカワゲラといった水生生物が生息しています。湿原には、草原に生息するセッカやホオジロ、森林部にはクロツグミ、キビタキ、オオルリなどが生息しています。

白水川沿いの泥炭層と砂礫層の互層

湿原を守っていくためには

いままで紹介してきたように、くじゅうタデ原地域には、湿原、草原、森林といった多様な自然があり、それぞれの自然に適した動植物が生きています。その中には絶滅が心配されている種も多くあります。この地域の自然が損なわれれば、これらの水生生物や昆虫、植物が消え、それを食べていた鳥類や動物たちも住めなくなってしまいます。すでに、昆虫類には、環境悪化や餌にする植物がなくなったせいで、ほとんど見られなくなった種があります。

また、貴重な動植物の生息地であるだけではなく、森林は、山腹に降った雨を一時的に蓄え、湿原に少しずつ水を供給する役割や、土砂が崩れて湿原を埋めてしまうのを防ぐ役割があり、新緑や紅葉は、私たち人間の目も楽しませてくれます。

自然研究路の木道

このように、自然に親しむことができる一方で、自然を大切に扱うよう気をつけなければ、自然は大きく傷ついてしまいます。

例えば、写真を撮るためやお弁当を食べるために、自然研究路や道路などを離れて湿原や森林に立ち入れば、そこに生きる動植物を踏み荒らしてしまいます。きれいな花や珍しい植物を見つけたからといって、勝手に持ち帰ってはいけません。

自然を守るために、わたしたち一人一人が気をつければできることがたくさんあります。今、わたしたちの周りの自然にどんな危機があるのか、どうやったら自然を守ることができるのか、考えてみましょう。そして、できることからはじめてみましょう。

タデ原の野焼き

タデ原湿原を含む一帯の草原の野焼きが、平成14年3月31日午後から実施されました。野焼きによりノリウツギやクロマツなど樹木の侵入を防いで草原景観を保持し、草原（湿原）植生やフロラの多様性を持続させる有効な手法です。（長者原の九州横断道路から撮影　荒金正憲）